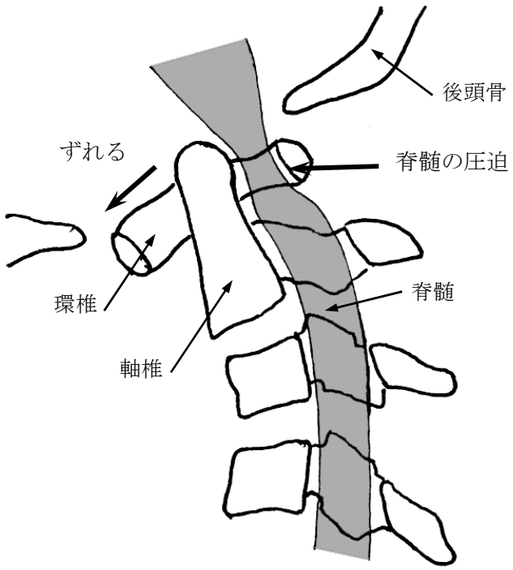
1.ダウン症の環軸椎不安定性，環軸椎(亜)脱臼について

病気の状態

環軸椎（かんじくつい）不安定性とは，７個の骨からなる首の骨（頸椎：けいつい）の第１番目の環椎（かんつい）が第２番目の軸椎（じくつい）に対して前方へずれる不安定な状態です（まれに後方へずれることもあります）．そのうち，ずれがひどく環椎と軸椎を結合する関節が完全にはずれてしまう場合を環軸椎脱臼といい，はずれかかった状態を亜脱臼（あだっきゅう）といいます．ダウン症に頻度が高いことで知られ，ダウン症の患者さんでは10〜30%に環軸椎不安定性があるといわれています．



環軸椎（亜）脱臼により脊髄が圧迫される

ずれの程度によっては，頸椎の中を通る神経である脊髄（せきずい）が圧迫されたり，損傷されたりする（急なずれと圧迫により傷つく）ことがあります．脊髄は手足の動きや呼吸を行う筋肉の動きに関係しているため，圧迫や損傷により脊髄麻痺症状が出現します．なお環軸椎不安定性により症状が出る頻度は数%といわれています．

脊髄麻痺症状（麻痺症状の程度はいろいろあります）

運動麻痺

手や腕，足や膝，太ももを動かす力が弱くなるため，これらの動きがにぶります．下半身の麻痺では，ふらついたり，びっこを引きながら歩けたりする場合もあれば，全く歩けなくなる場合もあります．あるいは歩いていても疲れやすく，すぐにしゃがみ込んでしまう，歩くのをいやがる，階段をのぼれないなどの歩行障害が生じます．

また上半身の麻痺で腕や手の動きが悪くなれば，スプーンや箸が使えない，手に持った物を落とす，腕があがらないなどの麻痺がでます．

麻痺がひどい場合は，上半身，下半身とも麻痺する四肢麻痺（ししまひ）で寝たきりになることがあります．

感覚麻痺

触った感じなどの知覚がにぶくなったり，手足がしびれたりしますが，本人がそのことに気づかない場合や十分に表現できない場合があります．

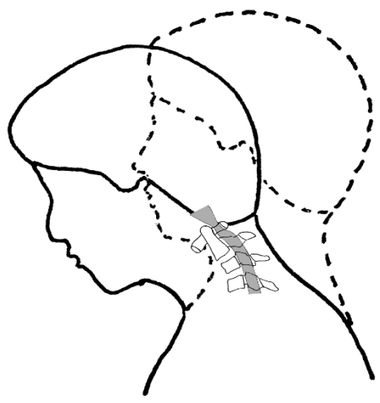
その他の症状

ずれが急に悪化した場合は，首や後頭部を痛がる，首を動かそうとしない，首や顔が横に向いたままもとにもどらないなど，首や頭の症状が出ることがあります．

また四肢麻痺では呼吸が弱くなり，呼吸麻痺が生じることもあります．膀胱や直腸の調節機能も障害されると，おしっこが常時もれたり，おしっこが出なくなる排尿障害や排便障害になります．

環軸椎不安定性のある患者さんが日常生活で注意していただくこと

- 頭や首を前にまげてうなずくような動作で脱臼が悪化する傾向があるため，このような動作を強制しないようにします．


うなずく動作でずれが大きくなります

（寝ている本人の後頭部に手を当ててからだを引き起こすことは，やめましょう．）

- 首や頭に強い衝撃が加わらないように気を付けてください．

（頭から転落する可能性のある運動，マット運動やトランポリン，頭突きをする，後頭部をたたくなどは行わないようにしてください．）

- 枕をかうのは，首を前にまげてうなずく姿勢になるので好ましくありません．
- 症状がなければ，本人の意思で頭や首を動かすことは自由にやらせてよいと思います．

治療方法

（準備中）

2.ダウン症の扁平足について

（準備中）